



# 林業福島

No. **616**

題字 公益社団法人福島県森林・林業・緑化協会  
会長 齋藤卓夫



**12** 2015

監修 ■ 福島県農林水産部  
表紙の写真 ■ 貯木場



チェーンソー選手権大会

# 労災事故ゼロを目指して

林業・木材製造業労災防止協会

福島県支部長 朝田 宗弘

時が経つのは早いもので、震災から四年半が過ぎました。自分のことを話すのは気が引けますが、私は浪江町の製材工場に時間の許す限り、朝夕の道路混雑の中、通って復興の状況などを見ています。

平成二五年、第十二次労働災害防止計画が策定され、労災事故ゼロを目指し、刈払機取扱作業者の安全衛生教育や伐木等の業務に関する特別教育を毎月実施してきました。その受講者を見ると県外者や様々な業種の方が受講されております。林業より原発に伴う除染作業に勤めるのかな？と考えています。

さて、労働災害防止計画の三年目も残すところ一か月となり、災害件数も九月末ですが、昨年並でこのまま……と思っています。

特に今年は、「簡易なリスクアセスメント集団指導（林業事業者対象）の演習」を中・浜・会津の三方部で実施しました。各地域でふくしま森林再生事業が発注され、お忙しい中、安全第一とご参加いただきありがとうございます。

また、十月十七日（土）にはチェーンソー操作技能向上を兼ねチェーンソー選手権大会を福島県林業祭に併せ開催しました。女性の参加もあり大いに盛り上がりました。

当協会支部のこれからの動きとしましては、昨年来の課題となっておりました車輛系林業機械の実技を含めた講習会を浜通り（いわき市）で開催したいと考えております。関係者の皆様には、開催時期・内容が決まりましたらお知らせいたします。

これから本部・支部一体となった体制の整備に努め、会員皆様のお役に立つよう努力してまいりますので、ご支援・ご協力をお願いいたします。

最後に、当協会本部で来年度の集団安全指導会は「製材工場・木材加工関係のリスクアセスメント」を予定しておりますので、木材加工技能者並びに事業主の皆様のご参加をお願いいたします。

## 《も く じ》

|                         |                      |    |
|-------------------------|----------------------|----|
| とびら                     | 平成27年度福島県きのこまつり…………… | 6  |
| 労災事故ゼロを目指して             | 第13回うつくしま育樹祭……………    | 7  |
| 林業・木材製造業労災防止協会          | 山地災害防止等支援活動に関する      |    |
| 福島県支部長 朝田 宗弘……………       | 協定について……………          | 8  |
| 第40回福島県林業祭開催……………       | 「自然に親しむ」……………        | 9  |
| 平成27年度福島県林業コンクール……………   | 普及指導員通信……………         | 10 |
| 第12回ふくしま森林・林業写真コンクール…   | 苗協だより……………           | 11 |
| 福島県学校関係緑化コンクール……………     | 木材市況・ふくしま東西南北……………   | 12 |
| 第18回福島県森林組合連合会良質材展示会開催… | はなしのひろば……………         | 13 |



# 第四〇回福島県林業祭開催

福島県林業祭実行委員会

福島県林業祭（林業復興応援イベント）は、東日本大震災及び福島第一原子力発電所事故に関する被害の克服をめざした取り組みの状況をお知らせし、併せて森林・林業の再生に対する県民意識の醸成を図ることを目的に、十月十七日、十八日の両日にわたって、郡山市の県林業研究センターを会場に開催いたしました。今回は、二日間とも秋晴れの好天に恵まれたこともあり、五、〇〇〇名の方に御来場いただき、震災前の状況に、より近づいた開催となりました。

十七日十時より、本館前にて開会式が行われ、小野和彦福島県林業祭実行委員会委員長のあいさつに続いて、テープカットが行われ、鹿狼アルプホルン倶楽部のファンファーレにより、第四〇回福島県林業祭が始まりました。

## 【イベント】

十七日には、第四〇回記念特別企画として、東日本大震災から五年が

過ぎようとしている今、森林資源をはじめ長年の取組により充実してきた成果を生かし、森林・林業・木材産業の活性化に向けた展望を探るため、「ふくしまの森に夢見る」と題し、林野庁次長の沖修司氏、作家の浜田久美子氏、建築家の三井所清典氏による「森林・林業復興鼎談」をホテルバーデン吉祥の間で開催し、林業の成長産業化に向けた取組状況やふくしまの林業・木材産業の復興へのヒントなどについて意見が交わされ、参加した約一二〇名の方々が熱心に聴講していました。

本館前では、開会式に引き続き鹿狼アルプホルン倶楽部の「森のコンサート」が行われ、十八日にはSTEEL BAND MISOLOAのチールドラムの響きが観客のみならず魅了していました。

県産材の小屋組展示では、「模範上棟式」が二日間で四回行われ、子供達をはじめ大勢の参加者が餅まきを競い合うように体験し、楽しい声が響き渡りました。また、「スタン

プラリー抽選」では、各会場を巡った方がくじを引いて、その結果に一喜一憂していました。

十八日午後の「森のオークション」では、前日のチェインソーアートで製作された作品をはじめ、県内各地より店頭に並ばない特注品も出品され、次々と元気なかけ声で競り落とされていました。なお、落札代金は、後日、緑の募金に寄付いたしました。

研修本館では、併催行事「きのこまつり」のイベントとして「きのこ料理教室」が二日間開かれ、たくさんの方がメモを取りながら、講師の宗像カツ子氏の説明に聞き入っていました。

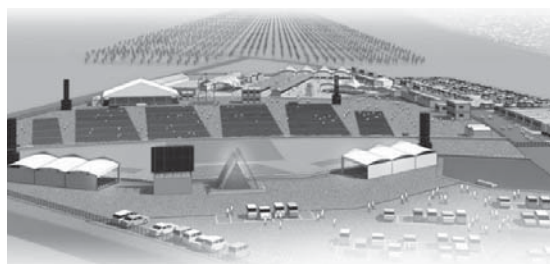
また、震災後初めて農林水産大臣賞が授与された「きのこ品評会」への出品物販売も行われ、品質のとて良いきのこが手ごろな価格で提供されていました。

展示館西側広場では、十七日に「チェインソーアートショー」が二回行われ、丸太から生み出される動物たちの大胆で繊細な造形に観客が見入っていました。

この他、「平成二七年度福島県チェインソー選手権」も開催され、今回初の女性競技者を含めた、県内六団体、十七名が出場し、安全はも

## 式典会場決定

平成27年12月2日、県と公益社団法人国土緑化推進機構との協議により、平成30年に開催される第69回全国植樹祭の式典会場を「南相馬市原町区雫地内の海岸防災林」とすることが正式に決定しました。



式典会場のイメージ図



記者会見の様子  
内堀知事（右）と  
国土緑化推進機構の  
前田副理事長

全国植樹祭「ノーナ」  
第69回全国植樹祭の式典会場が決定！ 森林保全課

ちろん、速さや正確さを競い合う三種類の競技に真剣に取り組んでいました。競技終了後、本館前において表彰式が行われ、競技参加者や来場者の方々からたくさんのお拍手が送られていました。（成績については、別表1のとおりです。）

また、十七日には、「平成二十七年福島県林業関係表彰式」をホテルバーデン吉祥の間で開催し、震災後中止となり五年ぶりに復活した林業コンクールをはじめ、第六六回福島県学校関係緑化コンクール、第十八回福島県森林組合連合会良質材展示会、福島県きのこ品評会、第十二回ふくしま森林・林業写真コンクールの六二件が表彰され、長年指導林家として活動された菅野庄一氏、佐久間孝氏へ知事感謝状が贈られたほか、森の名手・名人に選定された五十嵐征一氏、久保田節子氏へ認定証が伝達されました。（受賞内容は、各コンクールの紹介ページを参照ください。）

【展示・販売等】

研修本館では、第四〇回記念特別企画として「ふくしま森林の記憶と未来」と題し、林業祭の変遷や全国植樹祭、全国育樹祭、昭和五十五年豪雪害の記録や林業機械（高性能林業

機械）の変遷等を展示しました。この他、震災からの様々な復興活動や調査結果、木材やきのこの安全・安心の取り組み、ねまがり竹細工や松ぼっくり工作、木のおもちゃワークショップなどの各種体験コーナーのほか、林業研究センターの研究成果ポスター発表が行われました。なお、きのこ振興センター会議室では、森林所有者経営相談会、森林の仕事ミニガイドダンスも開催されました。

研修本館前では、県産きのこ、木工品、農産物、林業機械の展示販売などのコーナーが設けられました。本館前では、木の枝クラフト、丸太切り体験、いす作り、竹細工体験などの木工工作コーナーの他、マルシェふくしま号の試食体験や飲食コーナーも設けられました。

本館前通路では、平成三〇年開催の全国植樹祭PRやライシーホワイトのお米計量ゲーム、農林産物、六次化商品をはじめとした農林産物加工品、木工品、漆器、ペレットストーブ等の展示・販売が行われました。

展示館西側広場では、昔懐かしい木のおもちゃ体験、積み木のプールが設けられ、子どもたちが喜んで体験していました。

出展関係者、出演者など皆様の御協力により、二日間充実して実施することができました。今後も森林・林業関係者が一体となり、森林・林業・木材産業の復興、活性化に向け活動していくことが大切だと感じた二日間でした。

別表1 平成27年度福島県チェーンソー選手権 結果

| 種目 | 団体の部         | リレー          | 合わせ玉伐り                  | 精密玉伐り                   |
|----|--------------|--------------|-------------------------|-------------------------|
| 1位 | ふくしま中央森林組合石川 | ふくしま中央森林組合石川 | 目黒 和男<br>(相馬地方森林組合)     | 円谷 隆夫<br>(ふくしま中央森林組合石川) |
| 2位 | 相馬地方森林組合     | 東白川郡森林組合     | 本郷 剛臣<br>(ふくしま中央森林組合石川) | 有松 秀吉<br>(ふくしま中央森林組合石川) |
| 3位 | 東白川郡森林組合     | いわき市森林組合     | 蛭田 満<br>(いわき市森林組合)      | 福島 康人<br>(相馬地方森林組合)     |

特別賞：添田真奈美（田村森林組合）



開会式とファンファーレ



森林・林業復興鼎談



餅まき体験



きのこ料理教室

# 平成二十七年福島県林業コンクール

福島県 林業振興課

福島県林業コンクールは、林業技術の向上と林業経営の改善を図り、本県林業の発展を推進することを目的として開催していましたが、福島第一原子力発電所事故に伴う放射性物質汚染の影響により、県全体の森林整備の停滞、及び森林整備ができない地域ができたことにより中止してまいりました。しかし、森林・林業の復興に森林整備は欠かせないことから、森林整備の機運を高めるために五年ぶりにコンクールを再開しました。

コンクールの実施決定から、応募締切まで余裕を持った期間がとれない中、各農林事務所林業普及指導職員の取組により、十二件の応募を得ることができました。

林業振興課職員による現地審査の後、十月十三日に森林・林業関係団体の代表者も交えた審査委員会を開催し、各賞を決定しました。

応募数が震災前の約半分となりましたが、震災直後は森林整備そのものが困難であった事態から五年が経過し、環境が改善されてきていると実感できる内容となりました。

今後、従来の保育重視から、木材生産、更新作業について重点が移ってきていることから、林業コンクールについても時代の要請に応えられ

るよう見直しをするとともに、林業経営者の方々の奮起材料となれるようこれからも開催してまいります。

## 部門別表彰者

- 1 山林苗畑部門  
福島県知事賞 古川 一男  
福島県農林種苗農業協同組合長賞 上原 和直
- 2 造林部門  
福島県知事賞 渡部 慎一  
公益社団法人福島県森林・林業・緑化協会長賞 中津川 牧野利用農業協同組合 枝打部門 矢吹 孝夫  
福島県知事賞 孝夫  
福島県森林組合連合会代表理事 会長賞 宗教法人浄土寺 代表 猪狩 勝利
- 3 間伐部門  
福島県知事賞 水野 邦典  
福島県木材協同組合連合会長賞 佐藤 勝栄  
福島県木材協同組合連合会長賞 小山 傅
- 4 福島県森林組合連合会代表理事 会長賞 宗像 静夫  
公益社団法人福島県森林・林業・緑化協会長賞 鈴木 清美  
農林中央金庫福島支店長賞 共有林代表 三瓶 幸雄

## 第十二回

# ぐくしま森林。林業写真コンクール

公益社団法人福島県森林・林業・緑化協会

当協会では、森林整備の推進と森林・林業の振興に資するため、毎年度森林・林業写真コンクールを開催しています。

本年度は、森林整備作業や木材の利用、森林レクリエーションなど森林・林業との関わりのあるもので、福島県内を撮影地とした自作の未発表の作品を応募要件に広く募集したところ、応募人数は四五人、応募作品数は八八点と県内外から多数の応募がありました。

十月二日、県写真連盟高橋様を審査委員長に、森林・林業・木材との関わりという趣旨に沿ってテーマが明確に表現されているか、表現力に優れているかなどについて厳正に審査し、入賞作品を決定しました。

入賞作品については、第四〇回福島県林業祭の一環として、郡山市「ホテルバーデン」で表彰式が開催されるとともに、林業祭開催期間中会場に展示しました。

また、今後「林業福島」の表紙に適宜掲載してまいります。

(最優秀賞、優秀賞及び特別賞の入賞者)

| 区分   | 賞の種類                          | 入賞者          |       |         |
|------|-------------------------------|--------------|-------|---------|
|      |                               | 市町村          | 氏名    | 題名      |
| 最優秀賞 | 福島県知事賞                        | 白河市          | 根本 晴夫 | 樹木に親しむ  |
| 優秀賞  | 公益社団法人<br>福島県森林・林業・<br>緑化協会長賞 | 福島市          | 坂本 禮三 | 薪の芸術    |
|      |                               | 郡山市          | 橋本 文夫 | 木と生きる   |
|      |                               | 福島市          | 坂野 井浩 | 森林と馬の共存 |
| 特別賞  | 一般社団法人<br>福島県林業会館理事長賞         | 茨城県市<br>北茨城市 | 杉山 光男 | さ・がんばろう |



第六六回

# 福島県学校関係緑化コンクール

福島県森林保全課

福島県学校関係緑化コンクールは、児童・生徒の緑化活動及び学校における環境教育の一層の推進を図るために毎年行われています。

当コンクールには二つの部門（学校林等活動の部、学校環境緑化の部）があり、それぞれ各地域の農林事務所及び教育事務所からの推薦を受けて応募された学校について、現地調査を行った上、受賞校を決定します。

今年で第六六回を迎えた当コンクールでは、学校林等活動の部と学校環境緑化の部で、小学校と中学校を合わせて十五件の応募がありました。このうち、最優秀賞を受賞した学校をご紹介します。

(1) 学校林等活動の部（小学校）

- ・会津若松市立湊小学校…県知事賞、福島民報社社長賞を受賞

(2) 学校環境緑化の部（小学校）

- ・会津若松市立大戸小学校…県知事賞、福島民友新聞社社長賞を受賞



学校林での整備活動の様子  
(湊小学校)



児童が手入れを行った花壇の様子  
(大戸小学校)

第十八回

# 良質材展示会開催

福島県森林組合連合会

去る十月十九日、いわき木材流通センター（平成八年開設）において、「第十八回福島県森林組合連合会良質材展示会」を開催しました。

この行事は、毎年当センターの記念市と同時に開催し、育林技術や造材技術の項目毎の評価審査に基づいて、林野庁長官賞、福島県知事賞、関東森林管理局長賞、福島県木材協同組合連合会長賞、福島県森林組合連合会長賞の各賞が決定されます。

生産技術の改善向上と商品価値を高め、森林組合共販材の優秀性を広く紹介すること、また木材需給の安定に寄与することを目的に開催回数を重ねてきました。

展示会を開催し続けてこられたのも、当センターを御利用いただいております出荷者、買方者の御協力ならびに関係機関の御指導御協力があったることこの場をお借りしまして感謝申し上げます。

では、展示会の概要（審査）と各賞の受賞者のみなさま（表）をご紹介します。

(表) 受賞者紹介

|              | 受賞者名                  | 産 出   | 樹 種 | 長級(m) | 径級(cm) |
|--------------|-----------------------|-------|-----|-------|--------|
| 林野庁長官賞       | 水野林業 水野 廣人            | 古 殿 町 | スギ  | 3.00  | 18~20  |
| 福島県知事賞       | 石嶋商事 石嶋美智男            | 田 村 市 | スギ  | 4.00  | 42・44  |
| 関東森林管理局長賞    | 磐城林業協同組合<br>理事長 平子 作麿 | いわき市  | スギ  | 3.00  | 18~20  |
| 県木材協同組合連合会長賞 | 水野 悦男                 | 古 殿 町 | スギ  | 3.00  | 18~20  |
| 県木材協同組合連合会長賞 | 田子 英司                 | いわき市  | スギ  | 3.65  | 40・42  |
| 県森林組合連合会長賞   | 磐城造林株式会社              | いわき市  | スギ  | 3.65  | 30~38  |
| 県森林組合連合会長賞   | 遠野興産株式会社              | いわき市  | スギ  | 3.00  | 18~20  |
| 県森林組合連合会長賞   | ふくしま中央森林組合<br>石川事業所   | 石 川 町 | スギ  | 4.00  | 44・46  |

# 平成二十七年度福島県きのこまつり

公益社団法人福島県森林・林業・緑化協会 きのこ振興センター

秋晴れになった十月十七日(土)、十八日(日)の両日、第四〇回福島県林業祭の開催に併せ、郡山市の福島県林業研究センターにおいて、「福島県きのこまつり」を開催しました。本年は福島県きのこが着実に復興に向かっていくことを実感できる機会とするべく、名称を震災以前の「福島県きのこまつり」とし、盛大に行うことになりました。

「福島県きのこ品評会」では、前回よりも出品数が大幅に増え、生しいたけ九一点、なめこ・ひらたけ三八点など総数一四五点の出品となりました。審査委員による厳正な審査の結果、最優秀賞には震災以降初となる農林水産大臣賞が授与され、つづく林野庁長官賞など総入賞点数二五点が決まりました。今回注目すべきは、総出品点数が前回よりも二五点増え、震災前と全く変わらないレベルに回復したことです。また、初夏の猛暑とその後の急激な温度変化にも関わらず、品質の良いきのこが数多く出品されました。これらのことは、風評被害など取巻く環境がま

だまだ万全でない中でも、生産者の方々が精力的に生産活動を継続し、技術研鑽されている結果と思われれます。

一方、きのこまつりの一環として品評会会場の隣では、両日にわたるきのこ料理教室が開催されました。地元郷土料理研究家の宗像カツ子氏による「つめっこ」、「三種のきのこおこわ」と「きのこの煮つけ」の料理紹介が行われ、南会津地方の郷土料理の食材として様々な野生きのこが利用されていることを学びました。料理教室の後には、待望の試食会もあり、大勢の方々が賑わい「美味しい」との声が多く聞かれました。県内では放射性物質の影響により、依然として野生きのこの採取は難しい状況が続いています。しかし、福島県内には古くから各地域でこのに關わる食文化がしっかりと根づいており、このような各地域の料理紹介を通じて、秋の食卓に彩りを添える機会がますます増えることを期待しています。

## 平成27年度 きのこ品評会出品数内訳

| 出品数 | 生しいたけ  |        | 乾しいたけ | なめこ・ひらたけ | 参考出品(点) |
|-----|--------|--------|-------|----------|---------|
|     | 原木栽培部門 | 菌床栽培部門 |       |          |         |
| 28  | 63     | 12     | 38    | 4        |         |



(農林水産大臣賞)



(審査の様子)

### 《受賞者名簿》

#### ●生しいたけの部

農林水産大臣賞(菌床栽培部門) 大野 一宏(天栄村)  
林野庁長官賞(原木栽培部門) 古川 礼子(郡山市)

#### ○原木栽培部門

福島県知事賞 渡邊富士雄(本宮市)  
福島民報社長賞 青戸 博幸(塙町)  
(公社)福島県森林・林業・緑化協会会長賞  
国分 進(本宮市)  
全国農業協同組合連合会福島県本部会長賞

#### ○菌床栽培部門

福島県知事賞 大森 靖(矢祭町)  
福島民友新聞社長賞 安部 嘉彦(塙町)  
(公社)福島県森林・林業・緑化協会会長賞  
丸谷 康夫(泉崎村)  
高久 一志(西会津町)  
有限会社アグリプロ八丁目(郡山市)  
福島県農業協同組合中央会長賞  
有限会社遠藤きのこ園(川内村)  
全国農業協同組合連合会福島県本部会長賞  
三留 満(西会津町)  
福島県きのこ振興協議会長賞 佐久間利広(矢吹町)

#### ●乾しいたけの部

林野庁長官賞(乾しいたけの部) 山田 耕平(福島市)  
福島県知事賞 鈴木 吉一(磐梯町)  
日本権茸農業協同組合連合会長賞  
岩下 潔(喜多方市)  
(公社)福島県森林・林業・緑化協会会長賞  
小湊 登(石川町)  
福島県きのこ振興協議会長賞  
株式会社しもごう農園(下郷町)

#### ●なめこ・ひらたけの部

林野庁長官賞(なめこ・ひらたけの部)  
有限会社ハッピーファーム  
福島県知事賞 古川 安元(郡山市)  
日本特用林産振興会長賞  
有限会社鈴木農園(郡山市)  
(公社)福島県森林・林業・緑化協会会長賞  
佐藤 良市(下郷町)  
福島県森林組合連合会長賞  
有限会社日本メグスリノキ本舗(棚倉町)  
福島県きのこ振興協議会長賞 渡部 善一(下郷町)  
福島県きのこ産地化推進協議会長賞  
三浦 久義(伊達市)

敬称略



# 第十三回うつくしま育樹祭

## （第69回全国植樹祭 ふくしま2018プレイベント）開催

### うつくしま育樹祭実行委員会

日時：平成二十七年十一月七日（土）  
場所：いわき市フラワーセンター

うつくしま育樹祭は、県民の皆さんに緑や森林とふれあいながら、森林を守り育てることを知り、感じていただくことを目的として、森林の手入れをするなどの育樹作業や苗木を植栽する植樹作業、さらには参加者同士交流を深めていただくため様々なイベントを実施しております。

今回の育樹祭は平成三〇年全国植樹祭の福島県開催が決定したことを記念し、全国植樹祭のプレイベントとしてPRも兼ねて実施しました。

また、一昨年に引き続き鳥取県の美鳥（みどり）の大使（鳥取市立青谷小学校、琴浦町立八橋小学校、湯梨浜町立羽合小学校の緑の少年団の皆様）から、「とうほくとつとり・苗木の里帰りプロジェクト」の一環として育てられた苗木を寄贈していただき、地元（綴秋山みどりの少年団や親子連れ）の参加者たちと一緒に

植樹作業を行いました。

開会式は渡邊裕樹実行委員長の開会のことば、大会会長を務める内堀雅雄福島県知事（代読：畠利行副知事）のあいさつ、苗木（コナラ）の寄贈セレモニー、清水敏男いわき市長の来賓祝辞、記念撮影の順に行いました。

参加者は約三八〇人にのぼり、ふくしま・グリーンフォレストの会や福島県もりの案内人の会の皆様のご協力の下、それぞれの班に分かれて育樹作業や植樹作業に汗を流しました。育樹作業では、森林が本来持つ多面的機能を発揮させるため、スギ林の除伐や枝打ちを行いました。植樹作業では、開会式で鳥取県から寄贈されたコナラの苗木二〇〇本を植栽しました。

会場には、PR展示用テントを設け、全国植樹祭の周知やクイズを実施しました。

午後の交流イベントでは、森の貯金箱づくり・自然観察、竹箒（たけぼうし）づくり、鋸（のこぎり）目

立て実演・技術研修会、丸太切り体験等を実施しました。竹箒づくりでは、いわき市の石森竹細工店の石森金一氏、鋸目立て実演・技術研修会では、会津若松市で鋸鍛冶を営んでいる五十嵐征一氏にそれぞれご指導いただきました。どのプログラムも皆さん一生懸命、熱心に取り組みていました。

閉会式は甲斐敬市郎実行副委員長があいさつし、閉幕しました。閉会式終了後、地元特産品のいわきゴールドしいたけうどんと、緑地創造研究会が震災で被災した相馬市松川浦周辺のタブノキから種子を採取し育てた苗木を参加者全員に配布し、受け取った参加者はそれぞれの帰路につきましました。

これからも平成三〇年の全国植樹祭に向けて、福島県が震災・原発事故から復興した姿を全国へ発信できるように、こうした森林づくり活動をより一層進めていきたいと思っております。

最後に、第十三回うつくしま育樹祭にご参加・ご協力していただいた皆さんに御礼を申し上げます。ありがとうございました。



参加者全員で記念撮影



苗木の寄贈セレモニー



育樹活動



植樹活動



全国植樹祭PRブース、クイズに挑戦中



森の貯金箱づくり



自然観察



竹箒づくり



鋸目立て実演・技術研修会



丸太切り体験



# 山地災害防止等支援活動に 関する協定について

福島県森林保全課

近年、地震や局所的な集中豪雨など異常な自然現象による山地災害が多発し、地域住民の生活への影響が懸念される一方で、発災時における応急対策や復旧工事に必要な被害状況の把握にあたっては、迅速な情報収集活動が求められます。

集中豪雨等により民有林で発生する山地災害、治山・林道施設の被害等における情報収集連絡等の支援活動の円滑な実施を図るために必要な基本的事項を定めることで、迅速かつ円滑に防災対策を実施し、地域の安全の確保、向上を図ることを目的としています。

## 【協定締結の経緯】

こうした中、福島県森林土木建設業協会より社会貢献活動の一環として「山地災害防止等支援活動」の実施に係る提案があり、平成二十七年九月四日、福島県と協定を締結しました。

## 【協定に定められた支援活動の内容】

協定において、自主活動（パトロール等）や要請に基づき、以下の項目に関する情報を収集し、速やかに福島県に報告するものとしています。

- (1) 山地災害、治山・林道施設等の被害
- (2) (1)の被害箇所における二次災害発生の兆候
- (3) その他森林被害に関すること

## 【九月十日発生 平成二十七年九月

### 関東・東北豪雨災害】

今回締結した協定は、地震、台風、

平成二十七年九月九日から十日にか

けて、台風十八号から変わった低気圧の影響により、二四時間雨量で二〇〇ミリ/日を超え、南会津、県中地方を中心に、山腹崩壊等により国道への土砂の流出や家屋の一部倒壊などの被害が発生しました。

県は、直ちに消防防災ヘリによる調査や各農林事務所職員による現地調査を行うとともに、「山地災害防止等支援活動に関する協定」に基づき同協会に対して支援活動を要請しました。

実際の支援活動では、同協会関係者には国道等に流出した土砂等の撤去などの応急業務が求められている中、被害箇所の状況写真や被害規模などの情報を随時提供されるなど、被害状況の把握に際し、大きな機動力となりました。

## 【支援活動と治山事業】

今回の支援活動は、同協会関係者のボランティアによるものであり、その尽力に対して深く感謝するとともに、県として今後も山地災害から県民の生命・財産を保全し、安全で安心できる豊かな暮らしの実現を図るため、治山事業による復旧・減災対策に積極的に取り組んでいきます。



協定締結式の様子（協定者署名）



協定締結式の様子  
(出席者による記念撮影)



関東・東北豪雨災害（南会津町八総）



関東・東北豪雨災害（伊達市梁川町）

「自然に親しむ」

福島県の巨樹・名木 ー 9 ー

# 中釜戸のシダレモミジ

樹木医 鈴木俊行



「中釜戸のシダレモミジ」は、いわき市渡辺町中釜戸字猿田（表前）地内に生育している。生育地は、いわき市の南西部、常磐自動車道いわき湯本ICから南へ約二〇分、県道二四〇号線釜戸小名浜線の「紅葉橋」バス停より南約二〇〇メートルの観音堂境内にある。

名称は地名をとって呼ばれているもので、中釜戸のシダレモミジにまつわる古事来歴は伝わっていないが、その昔、ここにはお寺が建っていて、境内には観賞用の池があり、池の岸に二本のモミジが植えられていた。そのモミジが現在のシダレモミジだと言われている。今は、寺はなく観音堂が建っていて、境内に池はないが二本のシダレモミジの間が凹んでいて、その名残と思わせる地形となっている。

観音堂敷地内に生育する中釜戸のシダレモミジは大小二本あり、いずれも幹が白く、くねくねとねじれ曲

がり、ところどころにはコブ状のものも見られる。

樹種は、現地の解説版ではイロハカエドとなつているが、イロハカエドは別名、通称名であることから、ここではイロハモミジとしたい。カエド科カエド属のイロハモミジの枝垂れ型の変種で、植物形態学的、遺伝学的に貴重な樹木であることから、昭和十二年六月十五日に国の天然記念物に指定されている。

推定樹齢は約四〇〇年で、形状寸法は、二本並んでいるうちお堂に向かつて左側が大株、右側が小株として記載する。大株は、樹高五・五〇メートル、胸高幹周三・五〇メートル、根元周四・三〇メートルである。生育地が急斜面の法肩であることから、根張りは法尻に発達した主根の伸長が見られ、法上部の平坦地には根張りはあまり見られない。枝張りは、東六・二〇メートル、西五・四〇メートル、南四・五〇メートル、北四・三〇メートルで、四方に平均した枝張りが見られる。樹冠は、それぞれの枝の先に傘を開いたように葉が付き、玉ちらしのような樹形を呈している。

小株は、樹高五・四〇メートル、樹高幹周一・一五メートル、根元周〇・八五メートルで、根元がくびれたように細く、その上部の幹は、くの字に曲り異常なほど太くなっている。また、生育地は池

あるいは水路と思われる地形の法尻に生育している。枝張りは、東〇・五〇メートル、西八・四〇メートル、南三・五〇メートル、北五・五〇メートルで東側が大株の被圧等により枝伸長が少ない。樹冠は全体が一つの大きな傘のように葉を多く付けてこんもりと広がっている。

本樹の一番の見どころはなんと、言っても主幹が雲龍のようにねじ曲り、コブのように所々がゴツゴツし、白くお化粧したような独特の幹の様子である。さらには紅葉である。見ごろは例年では十一月下旬頃で、県内外から多くの観光客が押し寄せる。

見学は、本樹までの道路や周辺の道路が狭く、地域住民の生活道路になつていることから、車の通行や駐車などは迷惑にならないよう十分注意をして楽しんでいただきたい。





# 男鹿嶽県行造林の 列状間伐について

■南会津農林事務所  
林業普及指導員 五十嵐 正 徳

南会津地方は、県内でカラマツの蓄積量が最も多い地域であり、近年は合板用への需要拡大に伴い素材生産が活発に行われています。男鹿嶽県行造林は、昭和17年に田島町（現：南会津町）と県が分収契約を結び、県がカラマツとスギの植栽を昭和17年から昭和38年にかけて実施し29.44haを整備してきました。昭和55年に町と栗生沢区の当該森林の売買契約により、現在の土地所有者は栗生沢区67名共有となっています。また、水源かん養保安林にも指定されており、公益的機能の発揮にも寄与しています。

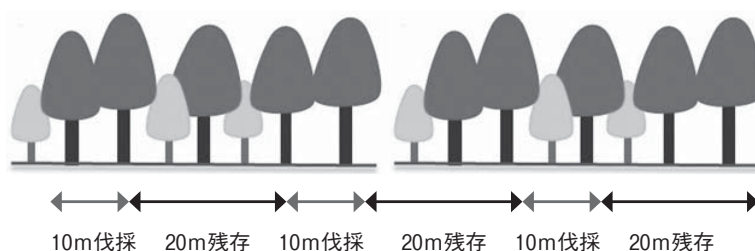
男鹿嶽県行造林は主伐期を迎えています。伐採収入から再造林経費を捻出することが困難な状況にあり、現在まで3回におよぶ契約期間の延長を行ってきました。針葉樹人工林施業を継続していくためには伐採跡地への再造林が不可欠です。しかし、過重な負担を土地所有者に強いることは理不尽であり、伐採跡地の再造林放棄に繋がりがねません。栗生沢区からの強い伐採要望もあり、成熟期にある当該森林の木材資源の有効活用と、森林の持つ多面的な機能を将来にわたり持続的に発揮させていくことを考慮し、皆伐一斉更新ではなく列状間伐による非皆伐更新を提案し区から了解を得ました。列状間伐を数回行なって漸次伐採跡地の天然更新を図ることで、針広混交林へと誘導し、長期的なプロセスを経て広葉樹への樹種転換を図る計画としました。これにより、新植および下刈り作業等の保育コスト削減にも繋がります。

列状間伐（面積約12ha）は、植栽列を間伐するのではなく、伐採帯10m、残存帯20mを平行に設定する方法としました（伐採率33.3%）（写真、図）。更新のイメージは、カラマツとスギの列状間伐によって出来た空間から林内に光が入り込み、伐採作業に伴う一時的な林床の攪乱による埋土種子の発芽によって幼稚樹が発生し、さらに侵入を図ってきた広葉樹灌木の伐根から萌芽枝が伸長するとともに、造林地周辺の広葉樹林からの天然下種により下層植生を繁茂させていきます。下層植生は、カラマツやスギの上層木と光を巡って競争することはなく、上層木と下層植生は生育空間を上下でシェアしあえることを想定しました。

とは言え、イメージだけではなく確実な広葉樹の稚樹の発生、萌芽による天然更新によって人工林からの広葉樹林化への成果が現れるためには、きめの細かい施業が必要となり多くの課題を克服しなければならないことも想定されます。当事務所では、この試行的な施業を検証し、現場に応じた今後の再造林のあり方を検討していきたいと考えております。



写真：列状間伐実施状況



図：列状間伐のイメージ

苗協メモ

“福島県会津美里産  
コンテナスギ初出荷”

十月十五日、会津流域林業活性化センターと会津森林管理署の主催により、大沼郡金山町内の国有林で、コンテナ苗現地検討会が開催されました。

植栽した苗木は、福島県内産のコンテナスギ二、八〇八本です。

これまで、福島県内におけるコンテナ苗木植付け実演会等で植栽されたコンテナ苗木の多くは宮城県産でした。

植栽したコンテナ苗は、平成二六年四月から県苗協会津支部組合員がコンテナ容器一二〇cc、三〇〇ccを使用して試験栽培で育苗した苗木です。

会津地方でのコンテナ栽培の不安は、雪です。

① コンテナが一二層以上の積雪に埋もれ変形してしまうのではないかと？

② コンテナに植えた苗（幼苗）が



雪の重さで枯損してしまうのではないかと？

こうした不安を解消するため、長嶺組合員による試験栽培に平成二六年から取り組み、平成二七年三月中旬、雪に埋もれたコンテナと苗を調査した結果、枯損、損傷等は少なく、会津地方でも生産できる確証を得ることができました。

林業採算性の悪化に伴う森林所有者の再造林意欲の低下を防ぐには、高密度網の整備や高性能林業機械の導入により、伐出分野の生産性はかなり高まっているが、人件費のウエイトが高い造林分野のコスト削減が課題でした。こうした現状を打開する取り組みが、平成二〇年頃からコンテナ苗の有効性、実用性等の実証事業が始まり、植栽時期を広げることができるとして、伐採、地拵え、植栽する一環作業システムによる造林分野のコストを削減できることが

実証され、近年、コンテナ苗の需要が十萬本単位で増加しているため、コンテナ苗生産を強く要請されています。

特に、関東森林管理局内の再造林用スギ苗は、原則、花粉発生源対策（少花粉等のスギ）第二世代精英樹（エリートツリ）コンテナ苗とすることから、栃木県苗協は四月から山行き苗の全てをコンテナ苗へ移行し、年間二〇から三〇万本を出荷する体制に着手しています。

同じ関東森林管理局内である福島苗協は、山行き苗がコンテナ苗となるまでには、相当先と悠長に考えていました。

会津森林管理署へ初出荷した「会津産コンテナスギ苗」は、「耐寒性があり、生育には欠かせない糖を蓄積した苗を生産でき、他の地域より有利な特色ある苗を生産できるのではないか」と、ご意見をいただきました。

コンテナ苗は、一年を通じ植栽が可能であり、植付け作業が裸苗に比べて半分程度の時間で行うことができることから、伐採から植栽までの「一貫作業」として造林部分のコスト削減化が図られます。

東北森林管理局内の植栽用苗は、コンテナスギ苗の供給が困難な場合は、裸苗とする考えが示されました。

本県は、関東森林管理局管内でありますので、すでに一貫作業請負事業

が発注され、コンテナスギ苗を供給することを求められています。今後、福島県農林種苗農業協同組合は、コンテナ苗生産には、資材等の初期投資が必要であることから需要側の情報を把握し、裸苗からコンテナ苗生産へ移行するための講習会を行い、コンテナ苗を安定供給できる体制を構築してまいりますので、皆様方のご支援、ご協力をよろしくお願いいたします。



コンテナスギ生産者の顔ぶれ



福島県産コンテナスギ植栽のコンテナスギ研修





はなしの  
ひろば

師走雑感

師走になると、一年の短さを痛感する。手帳の空白は、毎年同じ時期に埋まるし、年齢を重ねていくとますます短く感じるようになる。これは、一年の一を自分の年齢の数で割る。十歳なら十分の一になり、五〇歳なら五〇分の一になる。つまり十歳なら〇・一だが五〇歳なら〇・〇二とかかなりの速さで一年を終えることになる。これは「人生体験累積説」からきている。新しい体験の数々を掛け合わせると少しは長く感じるようになるかも知れないが、ここ数年、毎年同じ日々を送っている私は、年齢を重ねていく分だけ早く感じるの納得がいく。しかし、それだけ平穏な一年だったということに感謝しかない。

ところで、毎年十月頃から来年のカレンダーが出回ってくる。カレンダーは、ローマ時代のカレンダーリウムが語源で、これは「利子計算帳」の意味だったという。ローマでは、毎月一日を満期に定め、金貸しが利子を計算したようで、カレンダーは返済の期限を告げるものだったようだ。

また、太陽の運行をもとに季節を知らせる二十四節気・七十二候という知恵を生かした暦がある。七十二候は、古代中国のものを明治七年に日本の風土に合わせて修正をしたという。

私達はカレンダーで今日の月日を知り、暦で季節の間を知る。そして体験累積では人生の時の流れを実感する。

年の暮れは、いつも「一年早いですね。」と会話しながら、しみじみと時の流れを感じる頃だ。そして、今年も除夜の鐘を聞きながら、し残した宿題の多くを反省することになる。皆様の年の瀬が、どうか心穏やかでありますように。

（都）

表紙の写真



「貯木場」

第12回ふくしま森林・林業写真コンクールで入選を受賞した金子紀美子さん（本宮市）の作品。

編集

福島県内四森林管理署  
福島県森林・林業・緑化協会

福島県森林組合連合会  
福島県木材協同組合連合会

福島県農林種苗農業協同組合  
ふくしま緑の森づくり公社

森林総合研究所福島水産林整備事務所  
福島県森林・林業・緑化協会

（福島市中町五番一八号県林業会館内）

相馬

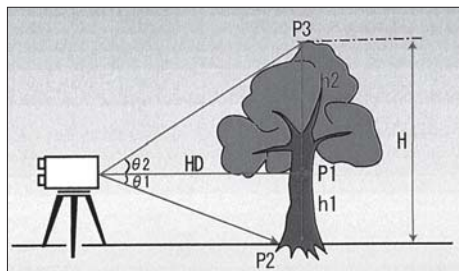
陽光社印刷株式会社

発行人

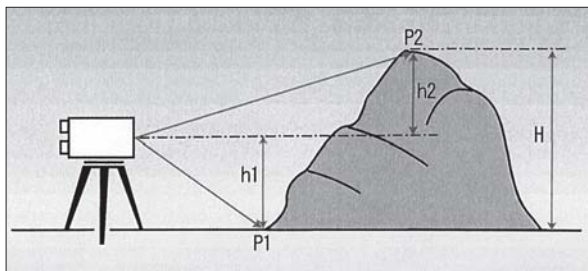
（定価 一〇八円）

高さ測定

1. 樹木の様に比較的まっすぐな場合



2. 堆積物等の山なり形状の場合



【LDM-20 仕様】

|           |  |
|-----------|--|
| 測距範囲      | 反射板 無30m 有300m                         |
| 測距精度      | ± 5mm                                  |
| 傾斜センサー分析能 | 0.1                                    |
| 測定        | 高さ・水平距離・斜距離                            |
| 寸法        | W64・H64・D180                           |
| 重量        | 650g                                   |
| 付属品       | ソフトケース・反射板・取説<br>RS232Cケーブル・EXCEL取込ソフト |



LDM-20

レーザーハイトセンサー「ハイト mini」

株式会社 福島測機

福島市渡利山ノ下前37-2 TEL024-523-1706 FAX024-523-1704



# 備えのパートナー 森林保険

こんな災害からあなたの山を守ります。



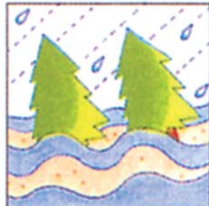
## 1 火災

山火事で受けた損害



## 2 風害

暴風による根返り、幹折れなどの損害



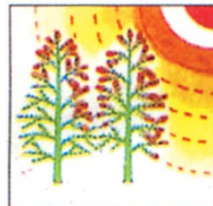
## 3 水害

豪雨、洪水による埋没、水没、流失などの損害



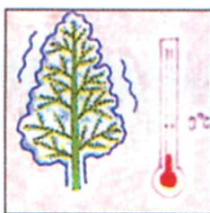
## 4 雪害

大量の積雪による幹折れ、根返りなどの損害



## 5 干害

乾燥による枯死などの損害



## 6 凍害

凍結、寒風などによる枯死などの損害



## 7 潮害

潮風、潮水浸水などによる枯死などの損害



## 8 噴火災

火山噴火による焼損、幹折れ、埋没、根返りなどの損害

《保険の対象となる森林》

竹林や人手の全く入らない天然林を除き、面積が0.01ha以上であれば、樹種、林齢に加入制限はありません。

《ご相談・お申し込みは》

◆福島県森林組合連合会  
TEL024-523-0255(代)

または最寄りの森林組合

イワフジのプロセッサ

# GP-45V グラップルプロセッサ

**IWAFUJI**  
INDUSTRIAL CO., LTD.

シンプルと耐久性を追求したプロセッサ

- 高耐久性を追求したフレームとトンク
- 全旋回を無くしたシンプル設計
- カッタ保持はシンプルなスプリング式
- 強力な油圧モータおよび保持力によるパワフルな送材力
- 大きなトンクによる効率的なグラップル作業
- 皮剥けを防止するガイドローラ付トンク
- 高速コンピュータGP-7による精度の高い安定した測尺
- 手元のノブスイッチで全ての操作が可能

Simple Processor  
MODEL : GP- 45V

**イワフジ工業株式会社**

www.iwafuji.co.jp

北関東支店 〒963-8052 福島県郡山市八山田 5-314  
TEL 024-973-5166 FAX 024-973-5168

林業機械の総合メーカー

- ・ハーベスタシリーズ
- ・フォワーダシリーズ
- ・グラップルシリーズ
- ・プロセッサシリーズ
- ・スイングヤーダシリーズ
- ・ラジキャリアシリーズ
- ・木寄せウインチシリーズ

イワフジが開催する「高性能林業機械のメンテナンス研修」受講生募集中!

# 自然との調和

私達は、地球的視野に立ち、つねに進取の精神をもって、時代に挑戦します。  
皆様のご要望にお応えする、環境との調和を図る製品やタイムリーな情報を提供し、全国から厚い信頼をいただいております。

## 野生獣類から大切な 植栽木を守る

ヤシマレント

## ヤマビル対策に

マリックスター(駆除剤)

## 蜂さされ防止

ハチノックL(楽退治)  
ハチノックS(携帯用)

## タケを駆除する

クロレートS

## 大切な日本の松を守る 住化グリーン<sup>®</sup>の林業薬剤

ヤシマスミバイン乳剤  
ヤシマスミバインMC  
グリーンガードNEO  
パークサイドF  
ヤシマNCS  
モリエートマイクロカプセル  
マツグリーン液剤2  
マッケンジー

## くん蒸用生分解性シート

与作シート(茶・白)  
(折りたたみ式  
専用キャリーバック使用)



**住化グリーン株式会社**

本社 〒103-0016 東京都中央区日本橋小網町1番8号  
東北営業所 〒981-3133 宮城県仙台市泉区泉中央3丁目10番3号 泉セントラルビル202号室

TEL.03-6837-9422 FAX.03-6837-9423  
TEL.022-771-6681 FAX.022-771-6682

効率良く快適に! 手持ち作業から大型作業まで充実のラインナップ。

# 機器はゼノアから

## チップシュレッダ



最大処理径  
180mm

竹もOK!  
**SR3000-2**

出力 22.3kW (質量1,330kg)

水冷ディーゼル  
X379301020  
¥3,375,000(税抜)

## プロソー



**GZ3950EZ**

排気量 39.1cm<sup>3</sup> (質量4.4kg)

40cm(16")  
RSP 21BPX 967159403  
95VPX 967159303  
HS 25AP 967159104  
91VXL 967159204

¥111,200(税抜)



**GZ4350EZ**

排気量 43.1cm<sup>3</sup> (質量4.4kg)

45cm(18")  
RSP 21BPX 967160502  
95VPX 967159902  
HM 21BPX 967160504  
95VPX 967159904

¥137,700(税抜)

ハスクバーナー・ゼノア(株)福島県代理店  
**(有)うねめ林業機械**

TEL(024)952-2657・FAX(024)951-7775 〒963-0211 郡山市片平町字新蟻塚108の1